

# 景況実感調査(2020年11月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日は19日となり、対前月比3日減、対前年比1日減となった。売上、数量共に日当たりでは前月を上回ったが絶対値は低い。実需はかなり弱く、仮需に支えられた一過性のものとする。11月中旬からコロナ感染者数の急増も気掛かりで、経済活動も年末の繁忙期(商機)を期待できないし、ボーナスの支給減がほとんどの企業で発表されており、消費マインドは弱くならざるを得ない。自動車、家電の一部のみが活況のようだが、建築関連は少ない物件の取り合いで、デフレモードが再燃している。
- ② 11月は回復基調にあった需要も落ち着き、前月比横這いに止まった。店売り材料はメーカーの供給が追いついておらず品薄が顕著で、無い物高の状況になっている。ただし、実需の回復が要因ではないため、需給を見極めながらの対応が求められる。
- ③ 高炉の生産枠が厳しくなり、市中に歯抜けサイズが出てくるようになり、材料不足による販売機会損失が出ているが、需要自体が増えている訳ではないので、今一つ値上げの盛り上がりには欠けるところがある。
- ④ 在庫が無く、自転車操業。需要家への供給がままならない。納期調整と値上げを同時に依頼している状況。年始の母材UPで落ち着くのではないかと懸念されている。

## 中板

- ① 高炉メーカーは自動車の増産対応のため店売り向けの枠をカットしている。今までにない在庫枯渇状況となっていて、客先にも迷惑をお掛けしている。
- ② 前月に引き続き、流通特約店等からの引合いはこれまでになく活発になっているが、高炉の供給は依然として厳しく、歯抜けが常態慢性化している。受託加工面では、自動車の生産回復から実需増加も感じるが、需要家及び流通での在庫積上げ要因もあり、連れて市況も上昇している。高炉バンキング解除とはいえ、需給のタイト化は来春まで続くとの見通しもあり、更なる逼迫が懸念される。とはいえ、コロナ禍にあって苦しんでおられる飲食業界、航空業界等に比べれば鉄鋼業界は恵まれているものをつくづく感じる。
- ③ 10月に引き続き11月も店売り向けのメーカーからの入荷が遅れている。無い物高で値段が切り上がってきている。

## 厚板

- ① 販売量は前月比では若干増加したが、前年同月比では2割減少した。産業機械ユーザーの稼働は低迷しているが、直近の生産計画によると在庫調整を下期中に終了して、来上期は今期同期比にて10%程度の増産を目論んでいるとのこと。建機関連主要ユーザーの稼働は回復傾向にある。メーカー各社により回復度合いに差はあるものの、最も落ち込みが酷かったクレーンメーカーも少しずつではあるが回復傾向にある。土木案件は手堅く推移しており、現状程度の重量にて推移する見込み。素材販売は前年比、前月比共大きく減少した。主力の建築需要の不振が影響し、薄中板ほどの逼迫感はない。
- ② 建設業界(特に民間建築)はコロナの影響で今後ますます厳しさが増えだろかと予想している。

## — 舟安开形金岡

- ① 売上高、粗利、売上数量とも前月比で減少だが、1日当たりに換算すれば微増となり、持ち直しに期待。国内スクラップ高騰による電炉メーカー製品の値上げ圧力は切迫しているが、需要水準が低すぎて絡み合わないのが実情。新年からの中国の鉄スクラップ輸入解禁が国内原料、製品市況に如何に反映されるのだろうか。浦安市況も中国抜きには語れなくなった時代となった。
- ② 11月上旬は10月と同様に荷動きが好調であったが、11月中旬以降、急激に悪化した。値上げを実行したが完全に上げることでできず、また、他社に流れるケースもあった。現物在庫がタイトにならない限り、今後の値上げは難しい。
- ③ 来年は厳しい時期に入る感だ。1年間仕事がないと聞いている。

## 工工开形金岡

- ① 11月の倉出しは増加。前年同月比では横這い。前月と同様に土木向けの需要があり、稼働日は減ったが日当たりは微増だった。メーカーの値上げがあり、値上げのスピードを上げて採算重視の慎重な販売に努める。
- ② 11月の荷動きについては、中旬以降引合い、受注共に減少し、稼働日の減少も重なり数量減となった。市況については、荷動きがパツとしないことを理由に上伸力を欠いてはいるものの、今後不需要期に入り荷動きの回復は期待できず、需要が無いからこそ市況を上げないと事業として成り立たなくなるのは明白。メーカーの値上げは今後も続くことは必至。流通は早く目を覚ますべきだ。

## 異形棒金岡・鉄線

- ① 土木向けの需要の増加があって、11月は久しぶりに前年並みの売上となった。メーカーは原料事情で値上げ姿勢を強めているが、中小物件は少なく動きは感じない。
- ② 来年1月20日より鉄線・ナマシは5~10円値上がりしそうだ。
- ③ コロナ禍、低位ではあるが秋需もあった。前年比、全ての数字が15%位悪かったが、何とかまとまった。しかし、スクラップが大きく変化している。先行き不透明。

## 平金岡

- ① 一部の業種で需要が回復しているようだが、実感は全くない。価格転嫁も進んでいないが、直近のスクラップ高で更なるメーカー値上げの可能性が高い。早急にすすめていく必要がある。荷動き状況は特にプラスになる要素もなく、当面はこの状況が続くと思われる。

## 車重量开形金岡

- ① 値上げの条件は揃ってきたが、一番重要な物量が足りないため苦しい状況だ。
- ② 例年になく、出荷量と出荷バランスが悪い。本来であれば繁忙期で大変な時期のはず。
- ③ 去年の需要が旺盛だった反動で前年比は大きく減少。前月比は稼働日数の減少分の減であり、日当たりの量は8~11月と同じくらいで変化はない。

## 金岡管

- ① 前月比、荷動きは横這い。当面、数量の回復は無く地道に再販見直しを行い、収益改善に努めるしかない。
- ② 需要は一進一退で力強さにかけるものの、メーカーの供給、価格が締まってきた事により市況が支えられ、来年に向けての望みが出てきた。
- ③ 今期最高の出荷量となり、日割りでも去年の好調時と同じ水準となったが、12月に入り9月のレベルに戻ってしまった。

## 構造用鋼

- ① 需要動向は、自動車関連一部を除き回復し、建機は中小型で回復基調も、向け先により温度差がある。産機は一部を除き低調。店売りは依然として出荷量、売上ともに苦戦をしている。在庫は発注の抑制により適正量になりつつある。市況は安値も一部に止まり概ね現行価格で推移。
- ② 自動車を主体に製鋼メーカーは生産増、納期対応に追われている状況。一方、店売りマーケットは依然として低迷が続いている。

## 磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品の出荷は急速に回復している。ただ、実需と内示のバランスが不安定なため、いつブレーキが掛かってもおかしくないのではと感じる。店売りの小口販売は紐付き品の出荷と比べるとまだ勢いを欠く状況が続いている。回復の兆しも見えてこない。当面は在庫の積み増しも控え、経費最小限で様子見をしていくしかなさそう。

## その他

<ステンレス・チタン・アルミ>

- ① 1カ月ごとに浮き沈みがあるが、均してみると悪いイメージではない。6月の半期判断で予算を下方修正したが、大分持ち直しており通期で見ると前期比で95%程度に収まる見込み。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ相場が高騰している。世界的にスクラップ不足の状態が続いており、無い物高になっている。マイナス要因は今のところ無く、年末にかけても強含みで推移して行くと予想する。

<金属表面処理>

- ① 11月は紐付き、物件物は予定通り。スポットは先月と同様に扱ひ量は低調であったが、付加価値の高い案件があり売上は前月比微増であった。12月から年明けにかけて物件物が始まることから、操業は11月と同様に推移しそうである。